

令和4年度 財政状況資料集

総括表（都道府県）

都道府県名	神奈川県		職員の状況（※7）				区分		令和4年度(千円)	令和3年度(千円)	区分		令和4年度(千円・%)	令和3年度(千円・%)
			区分	定数	1人あたり平均 給料月額(百円)		歳入総額		実質収支比率					
グループ	B		知事	1	14,500		歳入総額	2,539,155,772	3,010,396,503	実質収支比率	1.9	0.6		
人口	令和2年国調(人)	9,237,333	副知事	3	11,600		歳入歳出差引	2,492,642,650	2,975,523,260	経常収支比率	98.5	88.6		
	平成27年国調(人)	9,126,209	教育長	1	9,500		翌年度に繰越すべき財源	46,513,122	34,873,243	(※1)	(105.1)	(103.3)		
	増減率(%)	1.2	議会議長	1	12,000		実質収支	19,782,642	26,564,957	標準財政規模	1,376,993,363	1,408,199,595		
				議会副議長	1	10,800		単年度収支	26,730,480	8,308,286	財政力指数	0.84500	0.85330	
住民基本台帳人口 (※6)	令05.01.01(人)	9,212,003	議会議員	103	9,700		積立金	18,422,194	-63,724,102	公債費負担比率	18.2	16.2		
	うち日本人(人)	8,972,702	区分	職員数 (人)	給料月額 (百円)	1人あたり平均 給料月額(百円)	繰上償還金	4,205,106	94,712,510	健全化判断比率				
	令04.01.01(人)	9,215,210	一般職員	11,202	36,238,470	3,235	積立金取崩し額	0	0	実質赤字比率	-	-		
	うち日本人(人)	8,993,192	うち消防職員	-	-	-	実質単年度収支	54,725,549	13,804,980	連結実質赤字比率	-	-		
	増減率(%)	-0.0	うち技能労務職員	255	783,360	3,072	基準財政収入額	-32,098,249	17,183,428	実質公債費比率	9.4	9.2		
	うち日本人(%)	-0.2	警察官	15,737	51,208,198	3,254	基準財政需要額	903,628,033	762,503,839	将来負担比率	72.7	81.6		
面積(km ²)	2,416		教育公務員	23,383	79,917,119	3,418	標準財政収入額等	1,043,649,683	964,436,509	資金不足比率(※4)				
人口密度(人/km ²)	3,812		臨時職員	2,755	8,006,030	2,906	經常経費充当一般財源等	1,146,727,943	960,326,510					
世帯数(世帯)	4,223,706		合計	53,077	175,369,817	3,304	歳入一般財源等	1,410,890,151	1,355,563,422					
			ラスバイレス指数	100.7			地方債現在高	1,937,154,439	1,986,778,342					
							地方債現在高(臨時財政対策債除き)	3,227,799,513	3,406,904,379					
							うち公的資金	335,166,509	338,741,090					
							債務負担行為額(支出予定額)	201,677,603	231,003,119					
							収益事業収入	10,120,282	10,273,361					
							定額運用基金	-	-					
							土地開発基金	-	-					
							積立金 現在高	66,185,028	191,705,471					
							財政調整基金	55,705,550	67,781,743					
							減債基金	219,256,828	93,766,518					
							その他特定目的基金							

一般会計等の一覧 項番	会計名	事業会計の一覧 項番	会計名	公営企業(法適)の一覧 項番	会計名	公営企業(法非適)の一覧 項番	会計名	関係する一部事務組合等一覧 項番	組合等名	地方公社・第三セクター等一覧 項番	団体名	(※3)
(1)	一般会計	(11)	水道事業会計	(12)	電気事業会計			(18)	神奈川県内広域水道企業団	(20)	(一財) 神奈川県厚生福利振興会	○
(2)	公債管理特別会計			(13)	公営企業資金等運用事業会計			(19)	神奈川県川崎競馬組合	(21)	(株) 湘南国際村協会	
(3)	公営競技収益配分金等管理会計			(14)	相模川総合開発共同事業会計					(22)	(公財) 宮ヶ瀬ダム周辺振興財団	
(4)	地方消費税清算会計			(15)	酒匂川総合開発事業会計					(23)	(公財) かながわ国際交流財団	
(5)	水源環境保全・再生事業会計			(16)	流域下水道事業会計					(24)	(公財) 神奈川県文学振興会	
(6)	市町村自治振興事業会計			(17)	国民健康保険事業会計					(25)	(公財) 神奈川県芸術文化財団	
(7)	恩賜記念林業振興資金会計									(26)	(公財) かながわ健康財団	
(8)	林業改善資金会計									(27)	(公財) 神奈川県生活衛生営業指導センター	
(9)	沿岸漁業改善資金会計									(28)	(一財) あしがら勤労者いこいの村	
(10)	災害救助基金会計									(29)	(公財) 神奈川県都市整備技術センター	

(注釈) ※1：経常収支比率の()内の数値は、「減収補填債(特例分)」「猶予特例債」及び「臨時財政対策債」を除いて算出したものである。

※2：各会計の一覧は主な会計(10会計まで)を記載している。

※3：地方公共団体が損失補填等を行っている出資法人で、健全化法の算出対象となっている団体については、「地方公社・第三セクター等」の団体名に○印を付与している。

※4：資金不足比率欄には、資金が不足している会計のみ記載している。

※5：個人情報保護の観点から、対象となる職員数が1人又は2人の場合は、「給料月額(百円)」と「一人当たり給料月額(百円)」を「アスタリスク(*)」としている。(その他、数値のない欄については、すべてハイフン(-)としている)。

※6：人口については、調査対象年度の1月1日現在の住民基本台帳に登録されている人口に基づいている。

※7：職員の状況については、令和4年度地方公務員給与実態調査に基づいている。

(1) 普通会計の状況 (都道府県)

区分	歳入の状況 (単位 千円・%)		道府県税の状況 (単位 千円・%)		道府県税の状況 (単位 千円・%)		超過課税分	
	決算額	構成比	經常一般財源等	構成比	区分	収入済額	構成比	超過課税分
地方税	1,329,620,686	52.4	1,015,904,296	75.7	普通税	1,329,553,684	100.0	28,537,792
地方譲与税	176,225,237	6.9	176,225,237	13.1	法定普通税	1,329,553,684	100.0	28,537,792
地方揮発油譲与税	1,556,539	0.1	1,556,539	0.1	道府県民税	380,247,836	28.6	11,708,931
地方道路譲与税	-	-	-	-	個人均等割	8,878,346	0.7	1,469,891
特別とん讓与税	-	-	-	-	所得割	310,155,453	23.3	2,934,607
石油ガス譲与税	42,366	0.0	42,366	0.0	法人均等割	7,796,313	0.6	-
自動車重量譲与税	967,274	0.0	967,274	0.1	法人税割	17,889,973	1.3	7,304,433
航空機燃料譲与税	-	-	-	-	利子割	939,598	0.1	-
森林環境譲与税	149,841	0.0	149,841	0.0	配当割	19,552,463	1.5	-
特別法人事業譲与税	173,509,217	6.8	173,509,217	12.9	株式等譲渡所得割	15,035,690	1.1	-
市町村たばこ税都道府県交付金	-	-	-	-	事業税	327,946,119	24.7	16,828,861
地方特例交付金等	4,700,945	0.2	4,700,945	0.4	個人分	23,841,967	1.8	-
個人住民税減収補填特例交付金	4,700,945	0.2	4,700,945	0.4	法人分	304,104,152	22.9	16,828,861
新型コロナウイルス感染症対策地方税減収補填特別交付金	-	-	-	-	地方消費税	442,262,659	33.3	-
地方交付税	141,192,579	5.6	140,097,099	10.4	不動産取得税	29,684,000	2.2	-
普通交付税	140,097,099	5.5	140,097,099	10.4	道府県たばこ税	9,826,851	0.7	-
特別交付税	1,054,819	0.0	-	-	ゴルフ場利用税	1,619,866	0.1	-
震災復興特別交付税	40,661	0.0	-	-	軽油引取税	39,422,743	3.0	-
(一般財源計)	1,651,739,447	65.1	1,336,927,577	99.6	自動車税	98,543,610	7.4	-
交通安全対策特別交付金	1,235,557	0.0	1,235,557	0.1	鉦区税	-	-	-
分担金・負担金	10,615,679	0.4	-	-	固定資産税特例	-	-	-
使用料	27,262,833	1.1	2,184,212	0.2	法定外普通税	-	-	-
手数料	12,189,327	0.5	-	-	目的税	15,188	0.0	-
国庫支出金	458,615,638	18.1	-	-	法定目的税	15,188	0.0	-
国有提供交付金	-	-	-	-	狩猟税	15,188	0.0	-
財産収入	10,094,983	0.4	1,767,290	0.1	法定外目的税	-	-	-
寄附金	226,836	0.0	-	-	旧法による税	51,814	0.0	-
繰入金	134,379,708	5.3	-	-	合計	1,329,620,686	100.0	28,537,792
繰越金	34,873,243	1.4	-	-				
諸収入	35,608,695	1.4	4,542	0.0				
地方債	162,313,826	6.4	-	-				
うち減収補填債(特例分)	-	-	-	-				
うち臨時財政対策債	90,168,000	3.6	-	-				
歳入合計	2,539,155,772	100.0	1,342,119,178	100.0				

区分	歳入の状況 (単位 千円・%)		歳入の状況 (単位 千円・%)		歳入の状況 (単位 千円・%)	
	決算額	構成比	經常一般財源等	構成比	經常経費充当一般財源等	經常収支比率
議会費	3,460,808	0.1	-	-	3,460,504	57.7
総務費	188,517,540	7.6	10,462,841	159,093,621	31.4	
民生費	542,718,375	21.8	6,936,885	471,424,192	22.1	
衛生費	223,778,699	9.0	7,023,745	4,098,807	1.6	
労働費	6,595,414	0.3	1,266,952	16,445,036	24.6	
農林水産業費	26,965,122	1.1	11,801,797	38,583,829	24.6	
商工費	137,997,070	5.5	5,843,491	37,375,779	18.7	
土木費	111,740,134	4.5	84,694,467	187,208,113	57.7	
警察費	196,687,096	7.9	6,797,600	-	-	
消防費	-	-	-	-	-	
教育費	398,079,776	16.0	29,456,727	292,407,440	31.4	
災害復旧費	1,569,226	0.1	-	101,020	1.9	
公債費	369,354,992	14.8	-	353,858,030	57.7	
諸支出金	-	-	-	-	-	
前年度繰上充用金	-	-	-	-	-	
利子割交付金	576,817	0.0	-	576,817	1.9	
配当割交付金	11,607,495	0.5	-	11,607,495	1.9	
株式等譲渡所得割交付金	8,902,177	0.4	-	8,902,177	1.9	
分離課税所得割交付金	1,660,627	0.1	-	1,660,627	1.9	
地方消費税交付金	215,239,183	8.6	-	215,239,183	1.9	
ゴルフ場利用税交付金	1,129,955	0.0	-	1,129,955	1.9	
特別地方消費税交付金	-	-	-	-	-	
自動車取得税交付金	42,999	0.0	-	42,999	1.9	
軽油引取税交付金	18,996,587	0.8	-	18,996,587	1.9	
自動車税環境性能割交付金	5,314,972	0.2	-	5,314,972	1.9	
法人事業税交付金	21,707,786	0.9	-	21,707,786	1.9	
特別区財政調整交付金	-	-	-	-	-	
歳出合計	2,492,642,650	100.0	164,284,505	1,890,641,317	57.7	

区分	令和4年度	令和3年度
徴収率(現年計)	99.3	99.1
道府県民税	99.1	97.9
事業税	100.0	99.7
国民健康保険	3,655,762	7,599,453
事業会計の状況	3,655,762	7,599,453

(注釈) 普通建設事業費の補助事業費には受託事業費のうちの補助事業費を含み、単独事業費には同級他団体施行事業負担金及び受託事業費のうちの単独事業費を含む。

(2)各会計、関係団体の財政状況及び健全化判断比率（都道府県）

令和4年度 神奈川県

一般会計等の財政状況(単位:百万円)

会計名	歳入	歳出	形式収支	実質収支	他会計等からの繰入金	地方債現在高	備考
1 一般会計	2,492,610	2,450,102	42,508	26,730	125,474	4,074,760	
2 公債管理特別会計	615,098	615,098			497,947		
3 公営競技収益配分金等管理会計	2,400	2,400					
4 地方消費税清算会計	839,982	839,982					
5 水源環境保全・再生事業会計	8,417	8,214	203		8,300		
6 市町村自治振興事業会計	9,544	7,978	1,566		2,485	1,140	
7 恩賜記念林業振興資金会計	217	109	108				
8 林業改善資金会計	76	15	61				
9 沿岸漁業改善資金会計	165	19	147				
10 災害救助基金会計							
11 母子父子寡婦福祉資金会計	1,326	213	1,113		17	3,283	
12 介護保険財政安定化基金会計							
13 中小企業資金会計	2,005	1,626	379		216	4,468	
14 県営住宅事業会計	21,355	20,926	428		4,790	50,450	
15 地方独立行政法人神奈川県立病院機構資金会計	4,735	4,735				33,407	
16							
17							
18							
19							
20							
21							
22							
23							
24							
25							
26							
27							
28							
29							
30							
31							
32							
33							
34							
35							
36							
37							
38							
39							
40							
41							
42							
43							
44							
45							
46							
47							
48							
49							
50							
51							
52							
53							
54							
55							
56							
57							
58							
59							
60							
61							
62							
63							
64							
65							
66							
67							
68							
69							
70							
71							
72							
73							
74							
75							
76							
77							
78							
79							
80							
81							
82							
83							
84							
85							
86							
87							
88							
89							
90							
91							
92							
93							
94							
95							
96							
97							
98							
99							
100							
101							
102							
103							
104							
105							
106							
107							
108							
109							
110							
111							
112							
113							
114							
115							
116							
117							
118							
119							
120							
121							
122							
123							
124							
125							
126							
127							
128							
129							
130							
131							
132							
133							
134							
135							
136							
137							
138							
139							
140							
141							
142							
143							
144							
145							
146							
147							
148							
149							
150							
151							
152							
153							
154							
155							
156							
157							
158							
159							
160							
161							
162							
163							
164							
165							
166							
167							
168							
169							
170							
171							
172							
173							
174							
175							
176							
177							
178							
179							
180							
181							
182							
183							
184							
185							
186							
187							
188							
189							
190							
191							
192							
193							
194							
195							
196							
197							
198							
199							
200							
201							
202							
203							
204							
205							
206							
207							
208							
209							
210							
211							
212							
213							
214							
215							
216							
217							
218							
219							
220							
221							
222							
223							
224							
225							
226							
227							
228							
229							
230							
231							
232							
233							
234							
235							
236							
237							
238							
239							
240							
241							
242							
243							
244							
245							
246							
247							
248							
249							
250							
251							
252							
253							
254							
255							
256							
257							
258							
259							
260							
261							
262							
263							
264							
265							
266							
267							
268							
269							
270							
271							
272							
273							
274							
275							
276							
277							
278							
279							
280							
281							
282							
283							
284							
285							
286							
287							
288							
289				</			

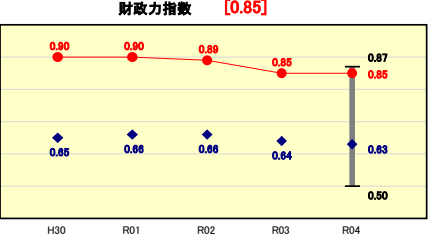
(3) 都道府県財政比較分析表(普通会計決算)

人口	9,212,003	人(85.1.1現在)	実質赤字比率	-	%
うち日本人	8,972,702	人(85.1.1現在)	連結実質赤字比率	-	%
面積	2,416.32	km ²	実質公債費比率	9.4	%
歳入総額	2,639,165,772	千円	将来負担比率	72.7	%
歳出総額	2,492,642,650	千円	グループ	H30 B R01 B R02 B	
実収支	25,730,480	千円	(年度毎)	R03 B R04 B	
標準財政規模	1,376,993,363	千円			
地方債現在高	3,227,799,513	千円			



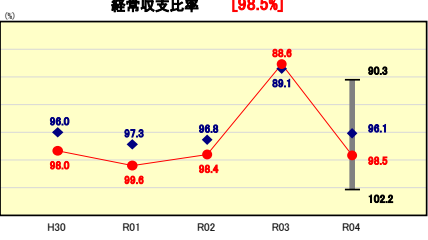
※ グループとは、道府県を財政力指数の高低によって5つに分類したものである。
 [Aグループ 1.000以上、Bグループ 0.500以上1.000未満、Cグループ 0.400以上0.500未満、Dグループ 0.300以上0.400未満、Eグループ 0.300未満]
 ※ 「人件費・物件費等の状況」の決算額は、人件費、物件費及び維持補修費の合計である。ただし、人件費には事業費支弁人件費を含み、退職金は含まない。
 ※ 人口については、各調査対象年度の1月1日現在の住民基本台帳に記載されている人口に基づいている。
 ※ グループ内順位及び都道府県平均は、令和4年度決算の状況である。また同一グループの団体が存在しない場合、グループ内順位を表示しない。
 ※ 「定員管理の状況」の「人口10万人当たり職員数」の算出に用いる職員数及び「給与水準(国との比較)」の「ラスバイレズ指数」については、各調査対象年度の地方公務員給与実態調査に基づいている。

財政力



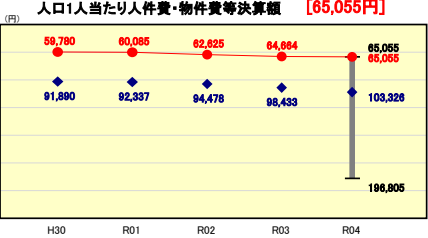
財政力指数の分析欄
 本県は、首都圏に位置し、大規模法人が多いことから、全国的に見て県税収入の割合が高く、財政力指数は0.85と全国平均の0.49の1.7倍、グループ内平均と比較しても1.3倍と、高い財政力を有している。

財政構造の弾力性



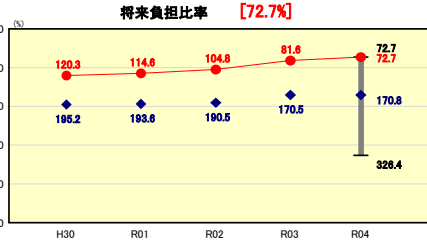
経常収支比率の分析欄
 令和3年度は、普通交付税の追加交付で臨時財政対策債償還基金費が創設された特殊要因に伴い、分母である経常一般財源が増となり、数値が大きく改善した。
 令和4年度は、令和3年度の特異要因が皆減したことで、経常一般財源が減となったことなどにより悪化した。
 なお、本県の財政構造は人口規模に応じて配置する警察官や教職員の人員費負担が多いことに加え、社会保障関係費が増加し、経常収支比率は高い傾向にあるため、今後も引き続き、人員費の抑制、県債の適切な管理、事務事業の見直し等により、歳出の適正化に努めていく。

人件費・物件費等の状況



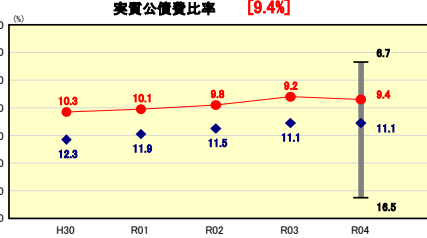
人口1人当たり人件費・物件費等決算額の分析欄
 人件費、物件費及び維持補修費の合計額の人口1人当たりの金額は65,055円とグループ内団体一低いコストとなっている。
 主な要因として、本県では全国に先駆けて平成9年から行政システム改革に取り組み職員数全体の伸びを抑えてきたためである。
 また、平成29年度の県費負担教職員の給与負担事務の政令市への移譲による影響も一因である。
 今後も引き続き、行政改革に取り組んでいく。

将来負担の状況



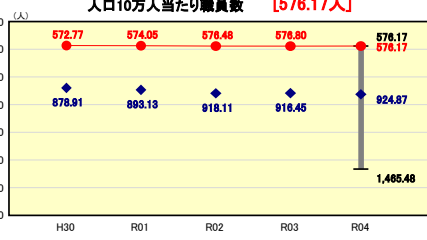
将来負担比率の分析欄
 令和4年度は前年度より8.9ポイント減少し、72.7%となり、早期健全化基準(400%)を大きく下回っている。
 これは、県債現在高の減少に加え、将来負担額に充当可能な基金が増加したことによるものである。
 なお、令和3年度からの将来負担比率の大幅な改善の主な要因は、普通交付税の後年度精算に備えた交付税精算基金への積立等、将来負担額に充当可能な基金への積立を多く行ったことによるもので、後年度の基金活用により将来負担比率が悪化する可能性もあることから、今後も県債の適切な管理を行うことで健全な財政運営に努めていく。

公債費負担の状況



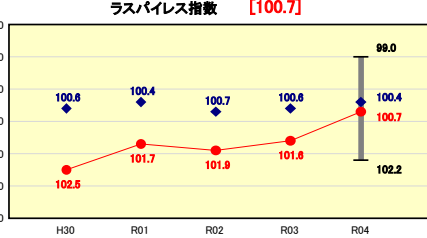
実質公債費比率の分析欄
 令和4年度は前年度より0.2ポイント上昇し、9.4%となったものの、早期健全化基準(25%)を大きく下回っており、依然として低い水準にある。
 これは、令和3年度の特異要因(普通交付税の追加交付で臨時財政対策債償還基金費が創設)が皆減したことに伴い、分母である標準財政規模が減となったことに加え、交付税措置されない県債(新型コロナウイルス感染症の影響等により地方税の徴収猶予に伴い生じる一時的な減収に対応するために発行した猶予特例債)の元利償還金が増したことによるものである。
 今後も、県債発行の適切な管理を行う等、健全な財政運営に努めていく。

定員管理の状況



人口10万人当たり職員数の分析欄
 簡素で効率的な県政の実現を目指し、全国に先駆けて平成9年度から行政改革に取り組み、一般行政部門の人口10万人当たり職員数は全国最少となっている。
 職員・組織・仕事の質を向上させ、行政組織の総合力を高める「質的向上」に着目した改革を進めており、引き続き業務量に応じた適切な定数管理に努めていく。

給与水準(国との比較)



ラスバイレズ指数の分析欄
 職員の採用・退職、育児休業代替期付き職員の増加等により、職員階層が変動し、前年度から0.9ポイント減少した。
 職員の給与水準は県内民間企業との均衡を基本としており、県内民間企業の給与水準は全国平均を上回る状況にあるため、本県のラスバイレズ指数は高くなる傾向にあるが、今後も引き続き、給与制度全般にわたる適正な運用に努めていく。

(4)-1 都道府県経常経費分析表(普通会計決算)

令和4年度

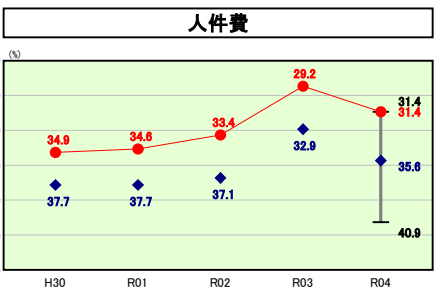
神奈川県

経常収支比率の分析

人口	9,212,003	人(R5.1.1現在)	実収赤字比率	-	%	
うち日本人	8,972,702	人(R5.1.1現在)	連結実収赤字比率	-	%	
面積	2,416.32	km ²	実収公債費比率	9.4	%	
歳入総額	2,539,155,772	千円	将来負担比率	72.7	%	
歳出総額	2,492,642,650	千円				
実収収支	26,730,480	千円	グループ	H30 B	R01 B	R02 B
標準財政規模	1,376,993,363	千円	(年度毎)	R03 B	R04 B	
地方債現在高	3,227,799,513	千円				

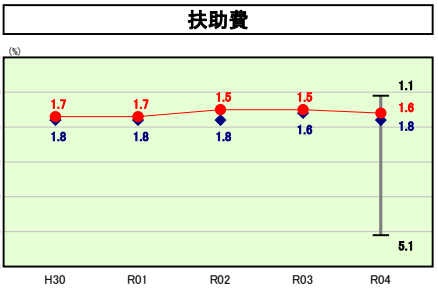
● 当該団体値
◆ グループ内平均値
┆ グループ内の最大値及び最小値

※ グループとは、道府県を財政力指数の高低によって5つに分類したものである。
〔 Aグループ 1.000以上、Bグループ 0.500以上1.000未満、Cグループ 0.400以上0.500未満、Dグループ 0.300以上0.400未満、Eグループ 0.300未満 〕
※ 人口については、各調査対象年度の1月1日現在の住民基本台帳に登録されている人口に基づいている。
※ グループ内順位及び都道府県平均は、令和4年度決算の状況である。また同一グループの団体が存在しない場合、グループ内順位を表示しない。



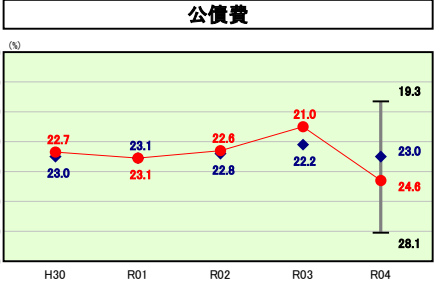
人件費の分析欄

平成29年度の県費負担教職員の給与負担事務の政令市への移譲により大幅に人件費が減となりグループ内で最も低い数値となっている。
令和4年度は、警察職員の人件費が増となったことに加え、令和3年度の特異要因（普通交付税の追加交付で臨時財政対策債償還基金費が創設）の皆減などにより分母である経常一般財源が減となったことから、前年比2.2ポイントの上昇となった。
今後も引き続き、人口規模に応じた職員の適正配置に取り組んでいく。



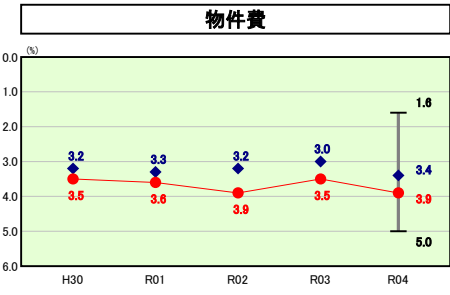
扶助費の分析欄

平成30年度から政令市へ難病患者医療費に関する事務を移譲したことの影響などにより数値が低下し、グループ内平均を下回っている。
令和4年度は、前年比0.1ポイントの上昇とほぼ横ばいとなった。
県民生活に直接かかわる経費であるため、今後も引き続き、適切に対応していく。



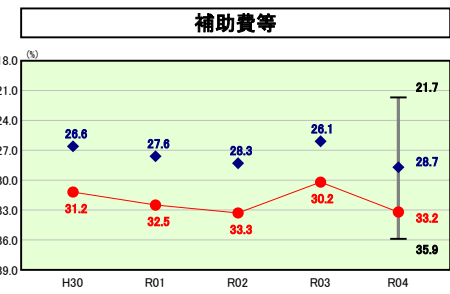
公債費の分析欄

県債管理目標として「令和5年度までに県債全体の残高を2兆円台に減少」を掲げて、県債の発行抑制に取り組んでいる。
令和4年度は、公債費が増となったことに加え、令和3年度の特異要因（普通交付税の追加交付で臨時財政対策債償還基金費が創設）の皆減などにより分母である経常一般財源が減となったことから、前年比3.6ポイントの上昇となった。
公債費は、令和4年度にピークを迎え、今後は中長期的に減少していくことが見込まれるため、県債管理に係る良好な状態を維持しつつ、必要な投資を抑制することなく、県債の適切な管理を行うことで健全な財政運営に努めていく。



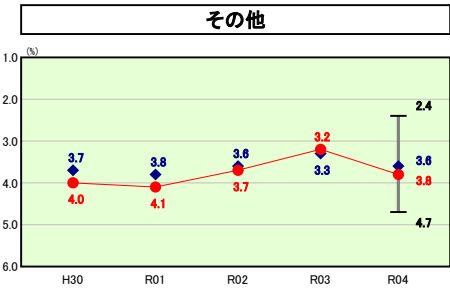
物件費の分析欄

令和3年度の特異要因（普通交付税の追加交付で臨時財政対策債償還基金費が創設）の皆減などにより分母である経常一般財源が減となったことから、前年比0.4ポイント上昇し、依然として、グループ内平均を上回っている。
今後も引き続き、事務事業の見直しや業務の効率化などに取り組んでいく。



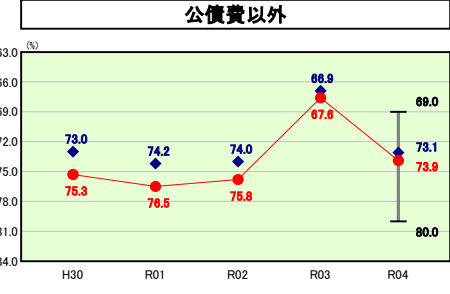
補助費等の分析欄

平成30年度、国民健康保険事業が新たに普通会計外となった影響等により数値が低下したものの、令和元年度以降は、幼児教育の無償化への対応等により数値が上昇した。
令和4年度は、団塊の世代が後期高齢者医療制度に移行することに伴い後期高齢者医療定率負担金等が増となったことに加え、令和3年度の特異要因（普通交付税の追加交付で臨時財政対策債償還基金費が創設）の皆減などにより分母である経常一般財源が減となったことから、前年比3.0ポイントの上昇となった。



その他の分析欄

平成30年度、国民健康保険事業が新たに普通会計外となったことによる繰出金の増などの影響により大幅に数値が上昇した。
令和4年度は、国民健康保険都道府県財政調整繰出金が増となったことに加え、令和3年度の特異要因（普通交付税の追加交付で臨時財政対策債償還基金費が創設）の皆減などにより分母である経常一般財源が減となったことから、前年比0.6ポイントの上昇となった。



公債費以外の分析欄

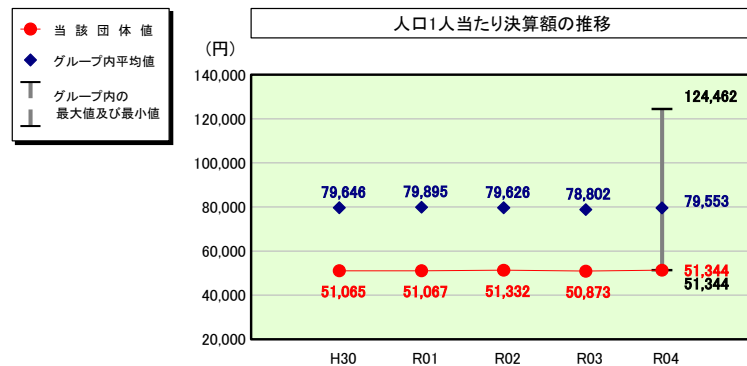
平成29年度の県費負担教職員の給与負担事務の政令市への移譲により大幅に人件費が減となったため数値が低下したものの、令和元年度以降は幼児教育の無償化への対応等により数値が上昇した。
令和4年度は、社会保障関係費の増に伴い補助費等が増となったことに加え、令和3年度の特異要因（普通交付税の追加交付で臨時財政対策債償還基金費が創設）の皆減などにより分母である経常一般財源が減となったことから、前年比6.3ポイントの上昇となった。
今後も事務事業の見直しに取り組むなど、健全な財政運営に努めていく。

(4)-2 都道府県経常経費分析表(普通会計決算)

令和4年度

神奈川県

人件費及び人件費に準ずる費用の分析



人件費及び人件費に準ずる費用

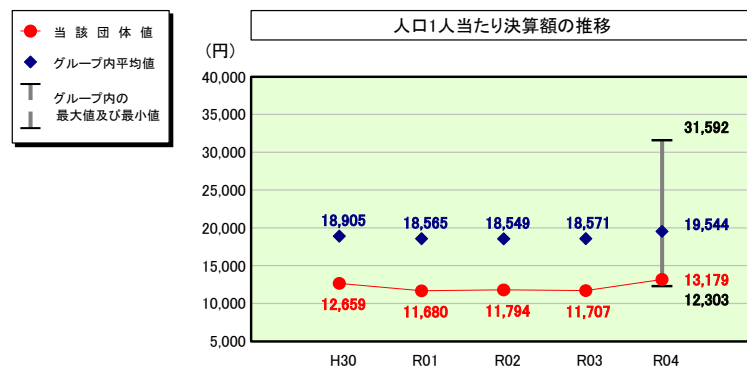
	当該団体決算額 (千円)	人口1人当たり決算額		
		当該団体 (円)	グループ内平均 (円)	対比 (%)
人件費	505,968,407	54,925	84,743	▲ 35.2
公営企業(法適)等に対する繰出し(補助費等)	412,988	45	459	▲ 90.2
公営企業(法適)等に対する繰出し(投資及び出資金・貸付金)	-	-	-	-
公営企業(法非適)等に対する繰出し(繰出金)	-	-	6	-
事業費支弁に係る職員の人件費(投資的経費)	4,163,397	452	1,050	▲ 57.0
▲退職金	▲ 37,566,569	▲ 4,078	▲ 6,706	▲ 39.2
合計	472,978,223	51,344	79,553	▲ 35.5

参考

	当該団体	グループ内平均	対比(差引)
人口100,000人当たり職員数(人)	576.17	924.87	▲ 348.70
ラスバイレス指数	100.7	100.4	0.3

(注) 人口については、各調査対象年度の1月1日現在の住民基本台帳に登載されている人口に基づいている。

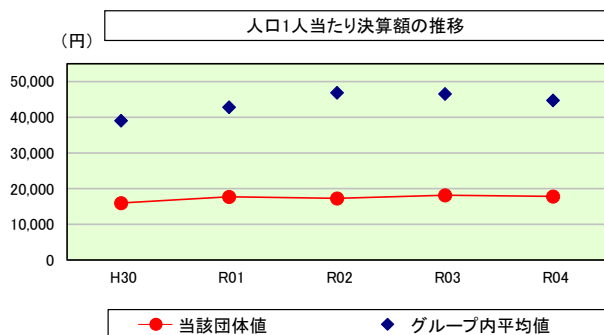
公債費及び公債費に準ずる費用の分析



公債費及び公債費に準ずる費用(実質公債費比率の構成要素)

	当該団体決算額 (千円)	人口1人当たり決算額		
		当該団体 (円)	グループ内平均 (円)	対比 (%)
元利償還金の額 (繰上償還額等を除く)	128,233,908	13,920	24,963	▲ 44.2
積立不足額を考慮して算定した額	1,674,374	182	1,044	▲ 82.6
満期一括償還地方債の一年当たりの元金償還金に相当するもの (年度割相当額)	165,609,023	17,978	20,939	▲ 14.1
公営企業に要する経費の財源とする地方債の償還の財源に 充てたと認められる繰入金	2,331,220	253	806	▲ 68.6
一部事務組合等の起こした地方債に充てたと認められる 補助金又は負担金	-	-	47	-
公債費に準ずる債務負担行為に係るもの	1,650,719	179	403	▲ 55.6
一時借入金利息 (同一団体における会計間の現金運用に係る利子は除く)	-	-	1	-
▲特定財源の額	▲ 3,533,300	▲ 384	▲ 1,558	▲ 75.4
▲地方債に係る元利償還金及び準元利償還金に要する経費として 普通交付税の額の算定に用いる基準財政需要額に算入された額	▲ 174,563,279	▲ 18,950	▲ 27,101	▲ 30.1
合計	121,402,665	13,179	19,544	▲ 32.6

(参考) 普通建設事業費の分析



普通建設事業費

	当該団体決算額 (千円)	人口1人当たり決算額				
		当該団体(円)	増減率(%) (A)	グループ内平均(円)	増減率(%) (B)	(A)-(B)
H30	146,862,359	15,982	3.2	39,072	0.0	3.2
うち単独分	89,838,543	9,776	13.9	14,106	4.9	9.0
R01	163,249,251	17,226	10.9	42,833	9.6	1.3
うち単独分	89,646,198	9,734	▲ 0.4	15,211	7.8	▲ 8.2
R02	159,321,812	17,280	▲ 2.5	46,888	9.5	▲ 12.0
うち単独分	82,677,445	8,967	▲ 7.9	14,375	▲ 5.5	▲ 2.4
R03	167,289,223	18,154	5.1	46,574	▲ 0.7	5.8
うち単独分	92,321,352	10,018	11.7	14,394	0.1	11.6
R04	164,284,505	17,834	▲ 1.8	44,729	▲ 4.0	2.2
うち単独分	93,237,908	10,121	1.0	15,395	7.0	▲ 6.0
過去5年間平均	160,201,430	17,395	3.0	44,019	2.9	0.1
うち単独分	89,544,289	9,723	3.7	14,696	2.9	0.8

(5) 都道府県性質別歳出決算分析表(住民一人当たりのコスト)

令和4年度

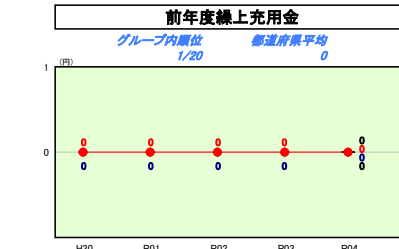
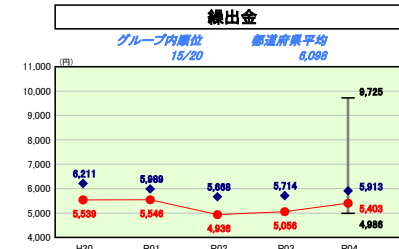
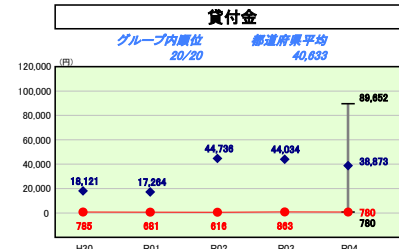
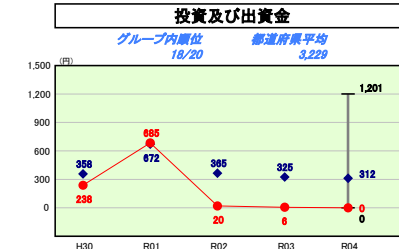
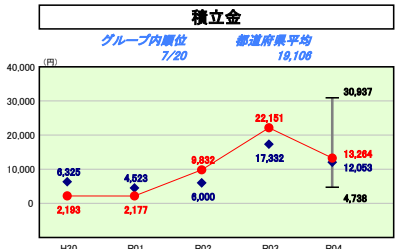
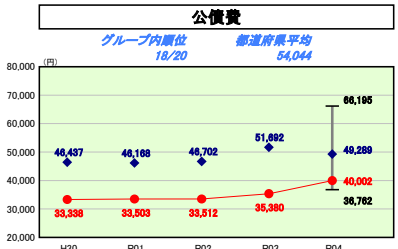
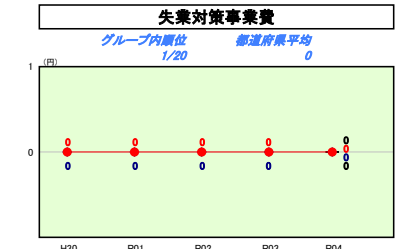
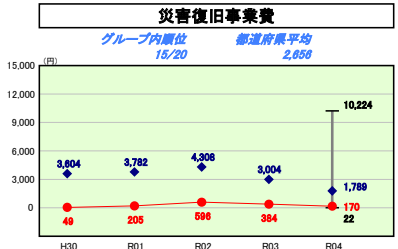
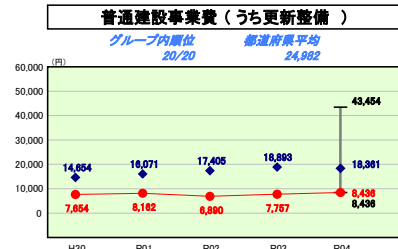
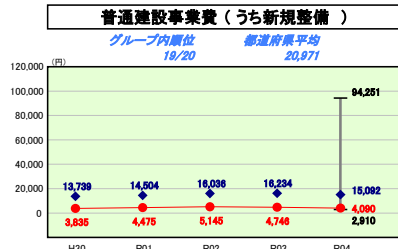
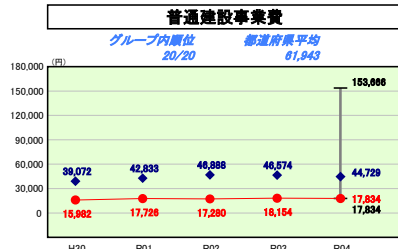
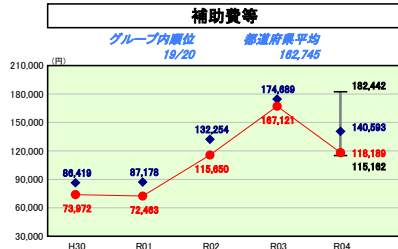
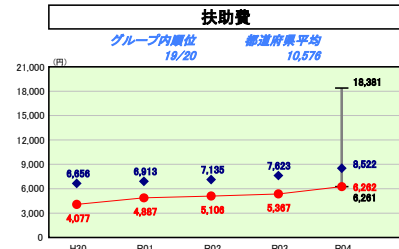
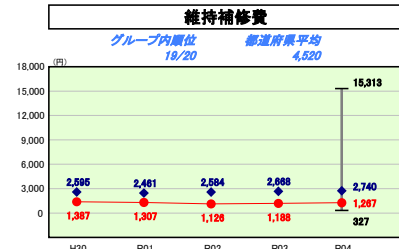
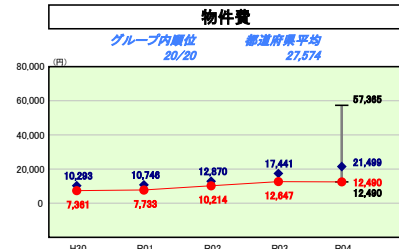
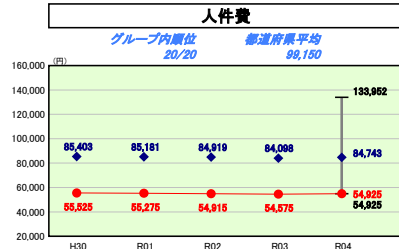
神奈川県

人口	9,212,003 人(05.1.1現在)	実赤字比率	- %
うち日本人	8,972,702 人(05.1.1現在)	連結実赤字比率	- %
面積	2,416.32 km ²	実公債費比率	9.4 %
歳入総額	2,539,155,772 千円	将来負担比率	72.7 %
歳出総額	2,492,642,050 千円	グループ H30 B R01 B R02 B	
実収支	26,730,480 千円	(年度毎)	R03 B R04 B
標準財政規模	1,376,993,383 千円		
地方債現在高	3,227,799,513 千円		

● 当該団体値
◆ グループ内平均値
T グループ内の最大値及び最小値

※ グループとは、道府県を財政力指数の高低によって5つに分類したものである。
〔 Aグループ 1.000以上、Bグループ 0.500以上1.000未満、Cグループ 0.400以上0.500未満、Dグループ 0.300以上0.400未満、Eグループ 0.300未満 〕

※ 人口については、各調査対象年度の1月1日現在の住民基本台帳に登録されている人口に基づいている。
※ グループ内順位及び都道府県平均は、令和4年度決算の状況である。また同一グループの団体が存在しない場合グループ内順位を表示しない。



性質別歳出の分析概

歳出決算総額は、住民一人当たり270.98万円となっている。
 人件費は、平成26年度の県費負担職員給与負担事務の政令市への移譲から大幅に減少し、グループ内団体と比較して低い水準で推移している。令和4年度は、警察職員の人件費の増により増加している。
 物件費は、グループ内団体と比較して低い水準で推移している。令和4年度は、感染症拡大防止協力金の支給に係る事務費の減等により減少している。
 補助費等は、グループ内団体と比較して低い水準で推移している。令和2年度以降は、新型コロナウイルス感染症の拡大防止対策により大幅増となっているものの、令和4年度は、感染症拡大防止協力金等事業費の減等により減少している。
 普通建設事業費は、道路建設などを県内に抱える3つの政令市が担っていることから、グループ内平均と比べて低い水準で推移している。令和4年度は、新型コロナウイルス感染症緊急包括支援交付金活用事業(感染症患者入院医療機関等設備整備費補助等)の減等により減少している。
 公債費は、過去に発行した臨時財政対策債の償還により増加傾向にあるが、県債発行の適正化に取り組み、グループ内平均と比べて低い水準で推移している。
 積立金は、令和2年度以降グループ内平均を上回る水準で推移している。令和4年度は、普通交付税の後年度精算に備えた交付税精算基金や臨時財政対策債償還基金に係る基金積立の減等により減少している。

(6) 都道府県目的別歳出決算分析表(住民一人当たりのコスト)

令和4年度

神奈川県

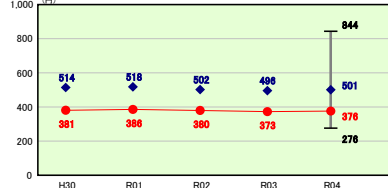
人口	9,212,003 人(05.1.1現在)	実質赤字比率	- %
うち日本人	8,972,702 人(05.1.1現在)	連結実質赤字比率	- %
面積	2,416.32 km ²	実質公債費比率	9.4 %
歳入総額	2,539,155,772 千円	将来負担比率	72.7 %
歳出総額	2,492,642,050 千円	グループ	H30 B R01 B R02 B
実収支	26,730,490 千円	(年度毎)	R03 B R04 B
標準財政規模	1,376,993,383 千円		
地方債現在高	3,227,799,513 千円		

● 当該団体値
◆ グループ内平均値
T グループ内の最大値及び最小値

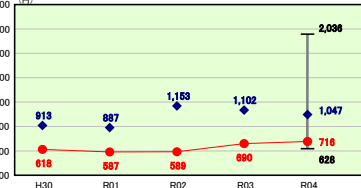
※ グループとは、道府県を財政力指数の高低によって5つに分類したものである。
〔 Aグループ 1.000以上、Bグループ 0.500以上1.000未満、Cグループ 0.400以上0.500未満、Dグループ 0.300以上0.400未満、Eグループ 0.300未満 〕

※ 人口については、各調査対象年度の1月1日現在の住民基本台帳に登録されている人口に基づいている。
※ グループ内順位及び都道府県平均は、令和4年度決算の状況である。また同一グループの団体が存在しない場合グループ内順位を表示しない。

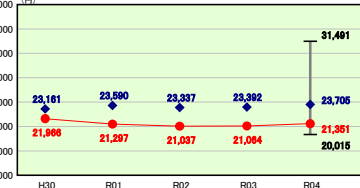
議会費
グループ内順位 19/20 都道府県平均 603



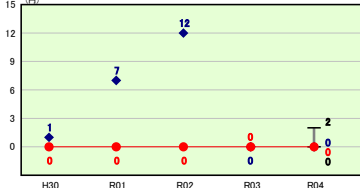
労働費
グループ内順位 16/20 都道府県平均 1,421



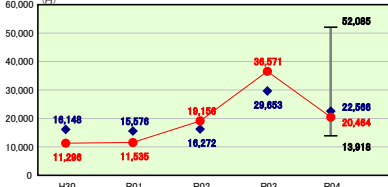
警察費
グループ内順位 17/20 都道府県平均 26,556



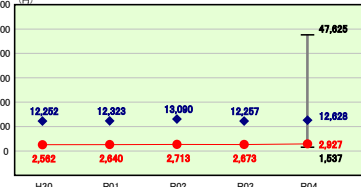
諸支出金
グループ内順位 2/20 都道府県平均 241



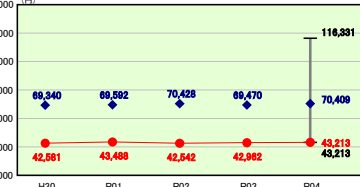
総務費
グループ内順位 14/20 都道府県平均 32,629



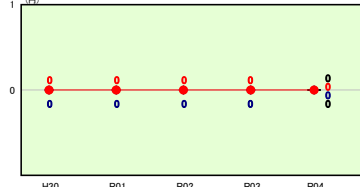
農林水産業費
グループ内順位 19/20 都道府県平均 19,521



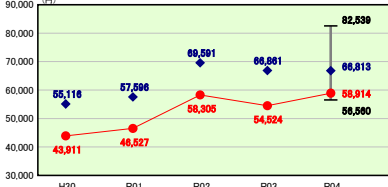
教育費
グループ内順位 20/20 都道府県平均 80,124



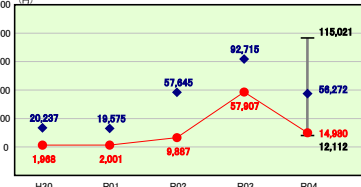
前年度繰上充用金
グループ内順位 1/20 都道府県平均 0



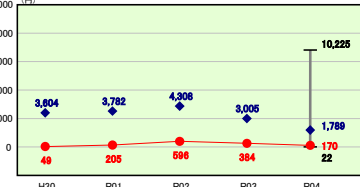
民生費
グループ内順位 18/20 都道府県平均 74,025



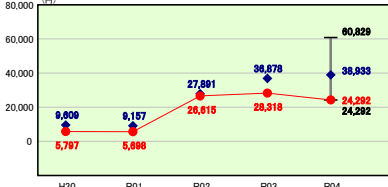
商工費
グループ内順位 19/20 都道府県平均 61,995



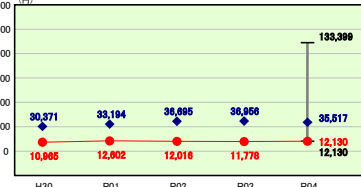
災害復旧費
グループ内順位 15/20 都道府県平均 2,856



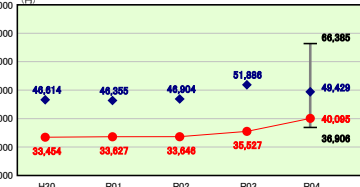
衛生費
グループ内順位 20/20 都道府県平均 47,590



土木費
グループ内順位 20/20 都道府県平均 49,980



公債費
グループ内順位 19/20 都道府県平均 54,177



目的別歳出の分析概

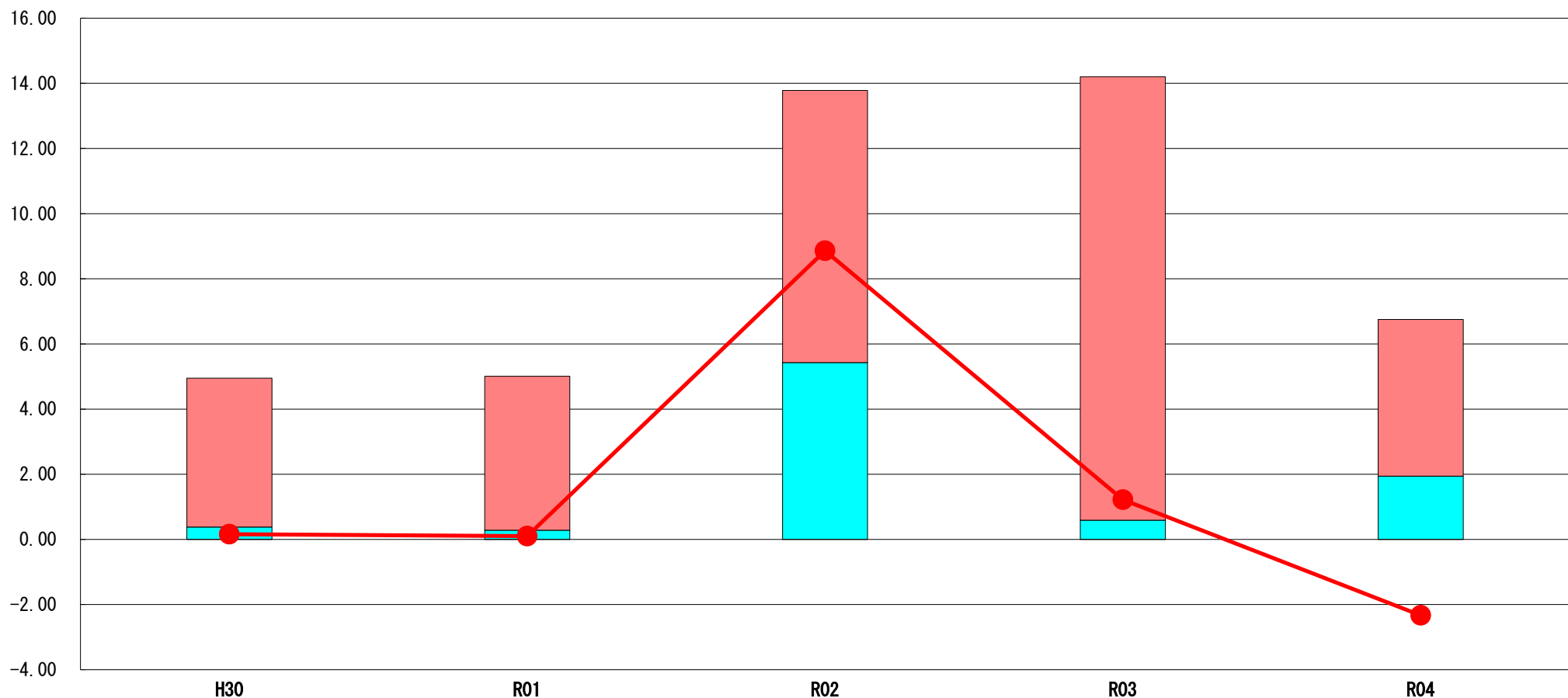
総務費は、グループ内平均に近い水準で推移している。令和4年度は、普通交付税の後年度精算に備えた交付税精算基金等への基金積立が減少したことなどにより減少している。
民生費は、グループ内平均を下回って推移している。高齢化に伴う社会保障関係費の増に加え、令和4年度は、新型コロナウイルス感染症緊急包括支援交付金に係る返納金の増などにより増加している。
商工費は、グループ内平均を下回って推移している。令和4年度は、新型コロナウイルス感染症への対応に伴う事業者への協力金（感染症拡大防止協力金）の減などにより減少している。
公債費は、過去に発行した臨時財政対策債の償還により増加傾向にあるものの、県債発行の適正化に取り組んでおり、グループ内平均と比べて低い水準で推移している。

(7) 実質収支比率等に係る経年分析（都道府県）




令和4年度

神奈川県

標準財政規模比（％）



標準財政規模比（％）

区分	年度	H30	R01	R02	R03	R04
 財政調整基金残高		4.57	4.73	8.35	13.61	4.81
 実質収支額		0.38	0.28	5.43	0.59	1.94
 実質単年度収支		0.16	0.10	8.86	1.22	▲ 2.33

分析欄

令和4年度の実質収支額は、新型コロナウイルス感染症緊急包括支援交付金の不用額（国への返納未済額）による特殊要因で、大幅な黒字となっているものの、この特殊要因を除いた実質収支は例年（令和2年度を除く）と同程度の規模となる。

令和4年度の実質単年度収支では、令和4年度の財源対策として、財政調整金を取崩しているため（547億円）、マイナスとなっている。

令和4年度末の財政調整基金の残高は、令和4年度の財源対策で活用したことに加え、3年度に交付された普通交付税の後年度精算分を4年度に新設した交付税精算基金へ移管したこと等により減少している。

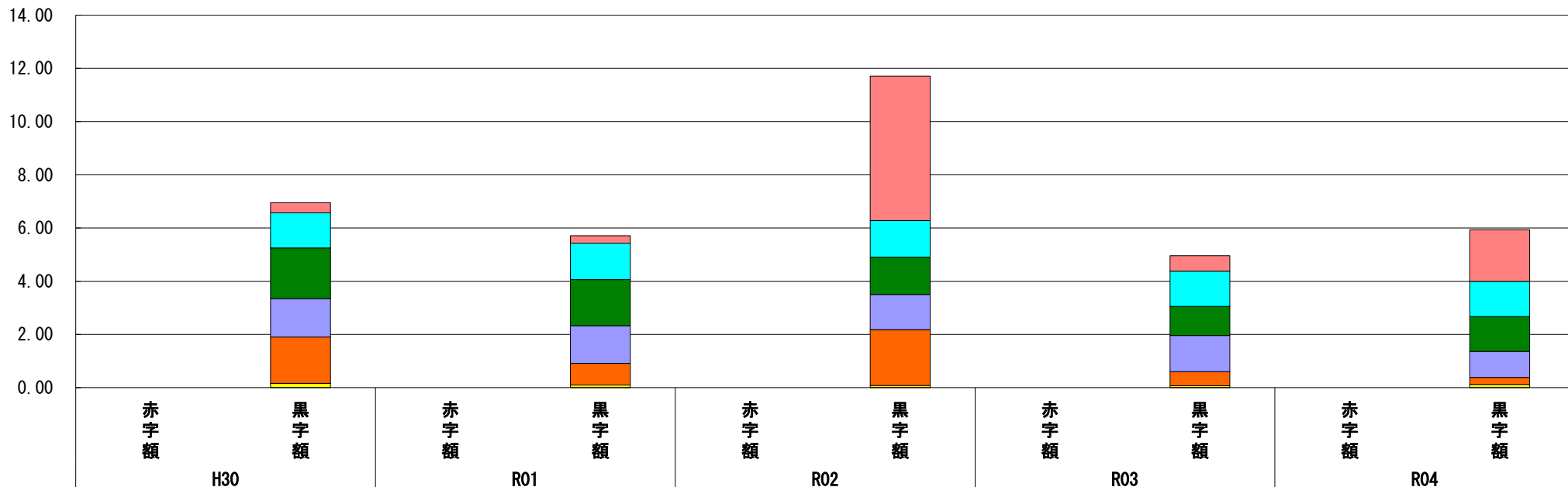
そのため、財政調整基金の4年度末残高は、本県の目標残高の目安である標準財政規模の5%に満たないため、今後も計画的な積立に努めていく。

(8) 連結実質赤字比率に係る赤字・黒字の構成分析（都道府県）

令和4年度

神奈川県

標準財政規模比（%）



標準財政規模比（%）

会計	年度	H30	R01	R02	R03	R04
一般会計		0.38	0.28	5.43	0.58	1.94
電気事業会計		1.32	1.37	1.37	1.33	1.33
公営企業資金等運用事業会計		1.90	1.73	1.41	1.09	1.31
水道事業会計		1.45	1.42	1.32	1.36	0.98
国民健康保険事業会計		1.74	0.81	2.10	0.53	0.26
流域下水道事業会計		0.16	0.10	0.08	0.07	0.12
公債管理特別会計		0.00	0.00	0.00	0.00	0.00
公営競技収益配分金等管理会計		0.00	0.00	0.00	0.00	0.00
その他会計（赤字）		-	-	-	-	-
その他会計（黒字）		0.00	0.00	0.00	0.00	0.00

分析欄

一般会計及び特別会計の実質収支は黒字である。また、公営事業会計においても、全ての会計で資金不足が生じていないため、連結実質赤字比率は該当がない。

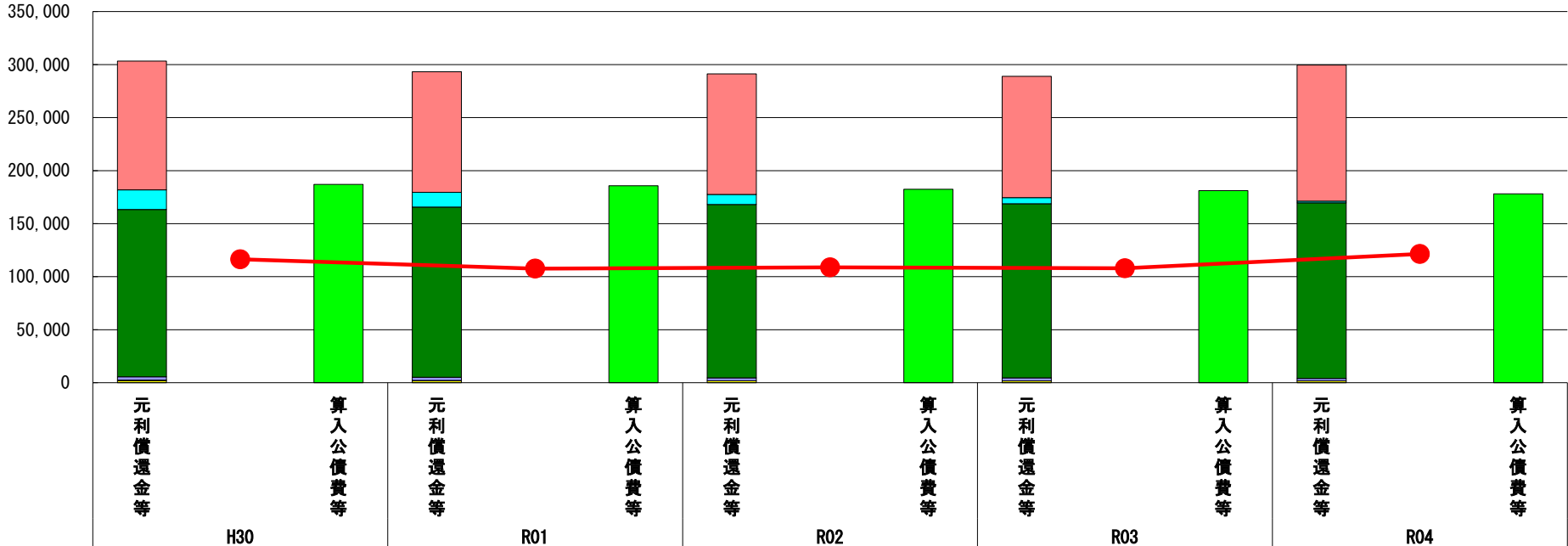
今後も引き続き、慎重な財政運営に努めていく。

(9) 実質公債費比率（分子）の構造（都道府県）

令和4年度

神奈川県

(百万円)



(百万円)

分子の構造		年度	H30	R01	R02	R03	R04
元利償還金等 (A)	元利償還金		121,504	113,647	113,654	114,398	128,234
	減債基金積立不足算定額※		18,400	13,968	9,509	5,802	1,674
	満期一括償還地方債に係る年度割相当額		157,815	160,551	163,477	164,235	165,609
	公営企業債の元利償還金に対する繰入金		3,176	2,945	2,657	2,766	2,331
	組合等が起こした地方債の元利償還金に対する負担金等		262	139	-	-	-
	債務負担行為に基づく支出額		2,136	2,009	1,882	1,772	1,651
	一時借入金の利子		-	-	-	-	-
算入公債費等 (B)	算入公債費等		186,960	185,692	182,433	181,093	178,096
(A) - (B)	実質公債費比率の分子		116,333	107,567	108,746	107,880	121,403

※ 減債基金積立不足算定額=(C) × (1 - (D) / (E))

(参考)

(百万円)

減債基金積立状況等 (注)		年度	H30	R01	R02	R03	R04
減債基金積立状況等 (注)	満期一括償還地方債に係る実質償還額又は理論償還額のいずれか少ない額 (C)		115,608	130,099	129,330	110,822	113,617
	前年度末減債基金残高 (D)		620,341	681,710	721,789	764,009	846,166
	前年度末減債基金積立相当額 (E)		737,759	763,706	779,070	806,215	858,822

(注) 減債基金のうち、実質公債費比率の算定に用いる満期一括償還地方債の償還の財源に係るもののみを記入。
減債基金積立金の年度を超えた一般会計又は特別会計への貸付額は控除して記入。

分析欄

令和4年度は、県債の償還がピークを迎えたことに加え、新型コロナウイルス感染症の影響等により地方税の徴収猶予に伴い生じる一時的な減収に対応するために発行した猶予特例債の元利償還金が生じたこと、実質公債費比率の分子は増加している。

今後、中長期的には県債残高や公債費は、減少していくことが見込まれるものの、老朽化した県有施設の更新や長寿命化、災害に強い施設整備等を進めていく必要があるため、引き続き、県債管理に係る良好な状態を維持しつつ、県債の適切な管理を行うことで健全な財政運営に努めていく。

分析欄

減債基金積立相当額の積立ルールが30年償還で毎年度の積立額を発行額の30分の1として設定しているのに対して、本県では10年償及び20年償の新規発行及び借替債発行において3年の据え置き期間を設定していたため、減債基金残高と減債基金積立相当額に乖離が生じている。

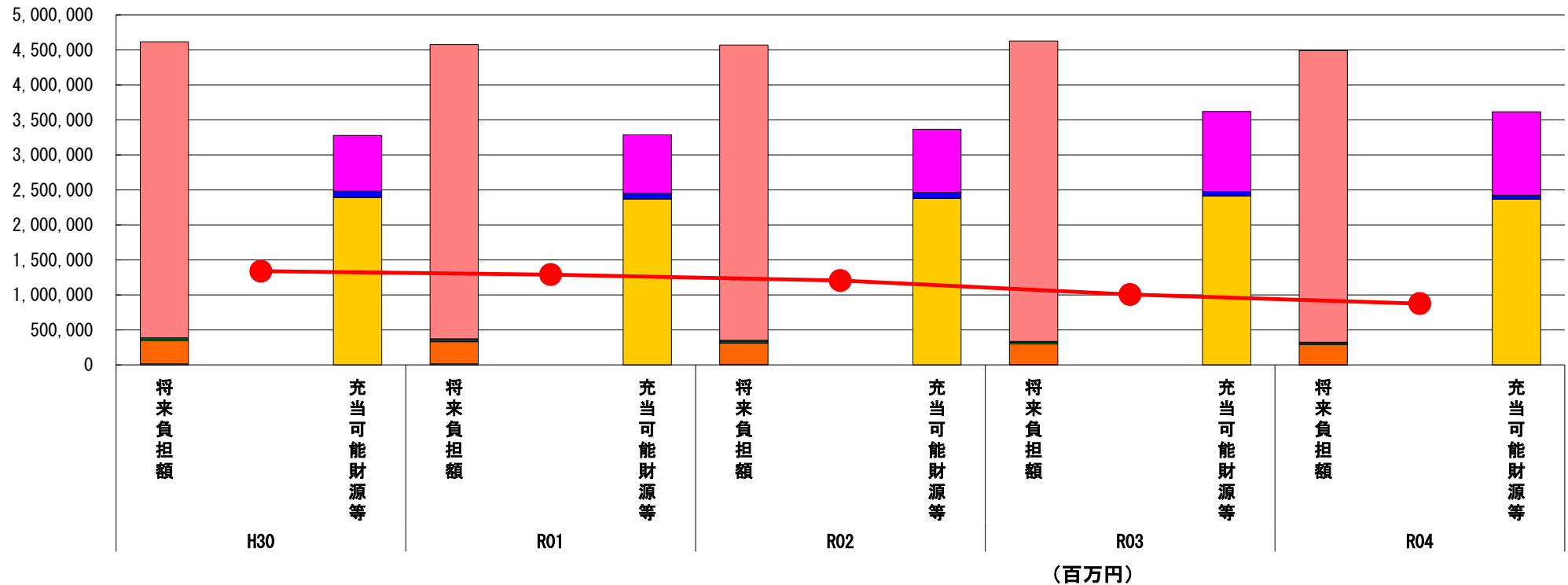
なお、本県では、令和3年度より減債基金積立の据え置き期間を3年から1年に変更したことにより、この乖離は今後も縮小していく見込みである。

(10) 将来負担比率（分子）の構造（都道府県）

令和4年度

神奈川県

(百万円)



(百万円)

分子の構造		年度	H30	R01	R02	R03	R04
将来負担額 (A)	一般会計等に係る地方債の現在高		4,229,332	4,204,958	4,218,760	4,291,815	4,167,509
	債務負担行為に基づく支出予定額		16,827	15,194	13,651	12,181	10,797
	公営企業債等繰入見込額		27,884	26,268	24,849	23,446	22,268
	組合等負担等見込額		137	-	-	-	-
	退職手当負担見込額		328,796	316,339	305,565	294,462	287,020
	設立法人等の負債額等負担見込額		14,409	14,088	7,608	5,012	3,803
	うち、健全化法施行規則附則第三条に係る負担見込額		-	-	-	-	-
	連結実質赤字額		-	-	-	-	-
	組合等連結実質赤字額負担見込額		-	-	-	-	-
	充当可能財源等 (B)	充当可能基金		795,631	836,506	903,767	1,144,679
充当可能特定歳入			89,733	80,376	83,608	62,518	56,446
基準財政需要額算入見込額			2,392,735	2,370,658	2,378,330	2,414,209	2,366,407
(A) - (B)	将来負担比率の分子		1,339,286	1,289,308	1,204,728	1,005,509	875,014

分析欄

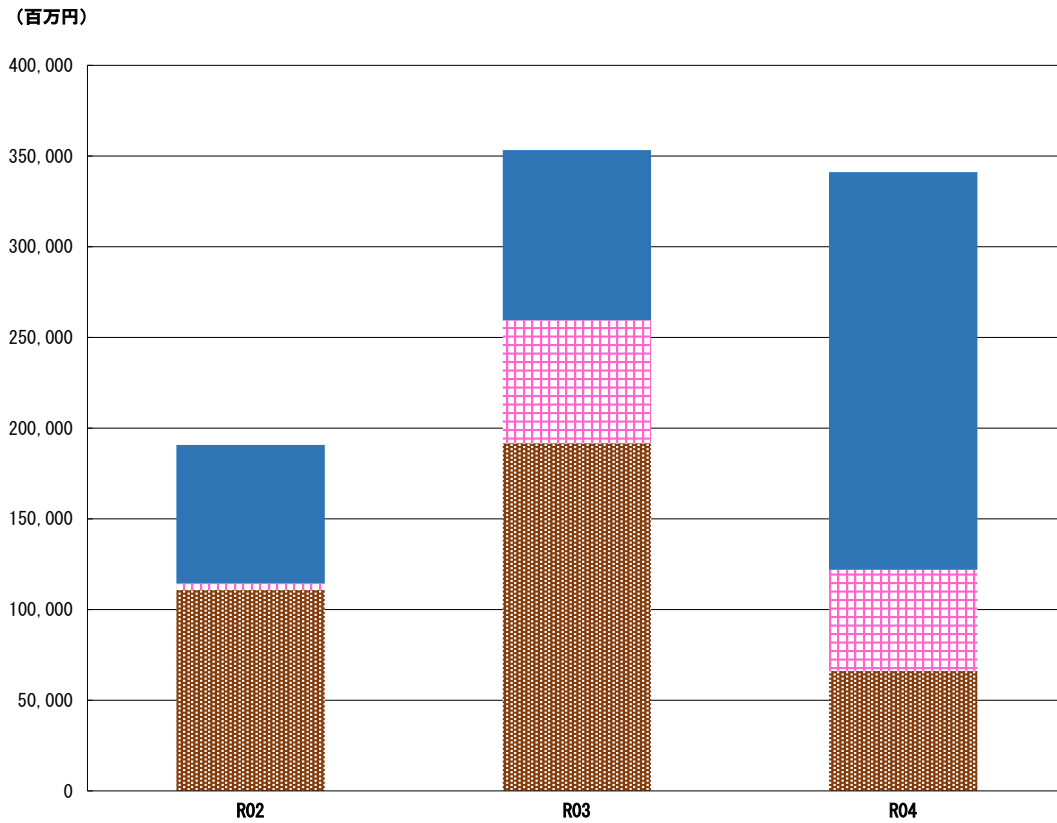
これまで県債残高が拡大してきた要因の1つである、過去に大量発行した県債の償還を進めたことで、一般会計等に係る地方債の現在高が減少している。

加えて、普通交付税の後年度精算に備えた交付税精算基金への積立や、安心して子どもを産み、育てることができる社会を実現するための子ども・子育て基金を新たに創設したこと等により、充当可能基金が増加している。

以上の要因により、将来負担比率の分子は減少している。

充当可能基金は、後年度の基金活用により減少する可能性もあることから、今後も県債の適切な管理を行うことで健全な財政運営に努めていく。

(11) 基金残高（東日本大震災分を含む）に係る経年分析（都道府県）



(百万円)

区分	年度	R02	R03	R04
財政調整基金		110,798	191,705	66,185
減債基金		3,563	67,782	55,706
その他特定目的基金		76,359	93,767	219,257
交付税精算基金		-	-	84,600
公共用施設等基金		-	12,000	34,700
地域医療介護総合確保基金		14,237	12,084	14,965
気候変動対策基金		-	18	13,512
かながわボランティア活動推進基金21		10,652	10,629	10,616
基金残高合計		190,721	353,254	341,147

令和4年度

神奈川県

基金全体

(増減理由)

- ・ 2年度末残高は、財政調整基金の増（+492億円）、減債基金の減（△269億円）等により、基金全体で元年度末残高より342億円増加。
- ・ 3年度末残高は、財政調整基金の増（+809億円）、減債基金の増（+642億円）等により、基金全体で2年度末残高より1,625億円増加。
- ・ 4年度末残高は、減債基金の減（△121億円）等により、基金全体で3年度末残高より121億円減少。

(今後の方針)

- ・ 財政調整基金については、不測の事態で生じる財政需要へも対応できるよう一定規模の積立は必要であるため、将来への備えとして残高の確保に努めていく。
- また、特定目的基金については、各基金の目的に従って適正な管理・運用を行っていく。

財政調整基金

- ・ 3年度の財源対策として積み立てたこと等による増（+492億円）。（2年度）

※ 2年度末残高は1,108億円あるが、3年度の財源対策活用分691億円（3年度当初予算時点で取崩しを予定）を除いた実質残高は417億円。

- ・ 3年度に交付された普通交付税の後年度精算に備えた積立（751億円）等による増（+809億円）。（3年度）

※ 3年度末残高は1,917億円あるが、交付税精算分750億円（4～6年度に取崩しを予定）、4年度の財源対策活用分547億円（4年度当初予算時点で取崩しを予定）を除いた実質残高は620億円。

- ・ 4年度の財源対策としての取崩（△547億円）や交付税精算分の特定目的基金への移行（△750億円）等による減（△1,255億円）。（4年度）

(今後の方針)

- ・ 本県では、過去に2,000億円規模の税収減を経験していることから、こうした不測の事態に備えて、県単独で行っている福祉、医療など、県民生活に直結する事業に影響を及ぼさないよう、標準財政規模の5%（5年度：約698億円）を目安とした積立に努めていく。

減債基金

(増減理由)

- ・ 償還財源に充当するための取崩しによる減（△269億円）。（2年度）

- ・ 3年度に追加交付された普通交付税（臨時財政対策債償還基金費）の一部の積立（392億円）及び県債償還額の平準化に備えた積立（250億円）による増（+642億円）。（3年度）

- ・ 臨時財政対策債償還基金費（97億円）や県債償還額の平準化に備えた積立（24億円）の取崩し等による減（△121億円）。（4年度）

(今後の方針)

- ・ 3年度に行った普通交付税（臨時財政対策債償還基金費）の一部積立（392億円）及び県債償還額の平準化に備えた積立（250億円）は、4年度に121億円取崩し（内訳：臨時財政対策債償還基金費97億円、県債償還額の平準化24億円）。残余は5～6年度に取崩しを予定。
- ・ 将来の償還に備え、必要に応じて積み立てていく。

その他特定目的基金

(基金の用途)

- ・ 交付税精算基金：法人事業税等の収入実績に0.75を乗じた額が当該税目の基準財政収入額より多いことにより生じる普通交付税の過大交付額の後年度精算への補填

- ・ 公共用施設等基金：公共用施設等の老朽化対策等のための財源の安定的な確保

- ・ 地域医療介護総合確保基金：医療及び介護の総合的な確保のための医療機関・公的介護施設の整備、居宅等における医療の提供、医療従事者・介護従事者の確保

- ・ 気候変動対策基金：気候変動に関する対策の推進

- ・ かながわボランティア活動推進基金21：公益を目的とする事業に自主的に取り組むボランティア団体等の活動の推進

(増減理由)

- ・ 交付税精算基金：基金の新設（財政調整基金から移行）及び4年度交付税の後年度精算分の積立による増（+846億円）

- ・ 公共用施設等基金：県有施設の老朽化対策に向けた積立による増（+227億円）

- ・ 気候変動対策基金：脱炭素社会の実現に向けた積立による増（+135億円）

(今後の方針)

- 各基金の目的に従い適正な管理・運営を行っていく。

- ・ 交付税精算基金：交付税精算（交付翌年度から3年間に分けて精算）にあわせて取崩しを予定。

- ・ 公共用施設等基金：3年度に積立した120億円は、5～10年度に取崩しを予定。

- 4年度に積立した227億円は、5～11年度に取崩しを予定。

- ・ 地域医療介護総合確保基金：本県が作成した計画に基づき、医療機関・公的介護施設の整備など当該基金を活用し事業を推進。

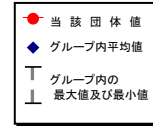
- ・ 気候変動対策基金：4年度積立した135億円は、5～8年度に取崩しを予定。

(12) 都道府県公会計指標分析／財政指標組合せ分析表

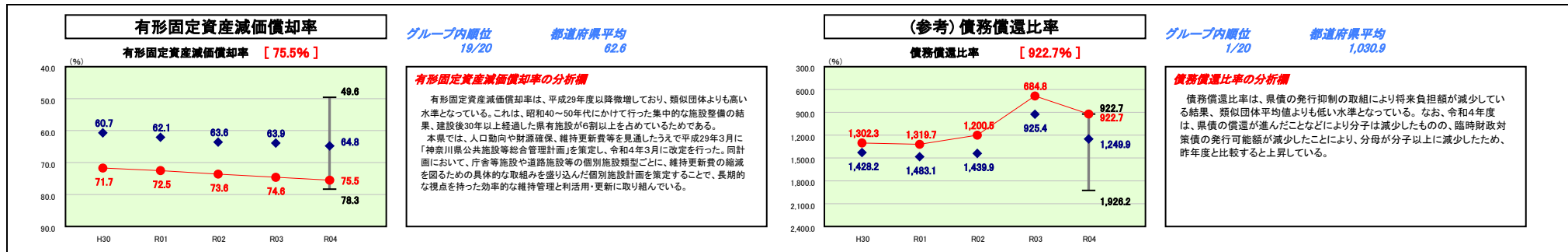
令和4年度

神奈川県

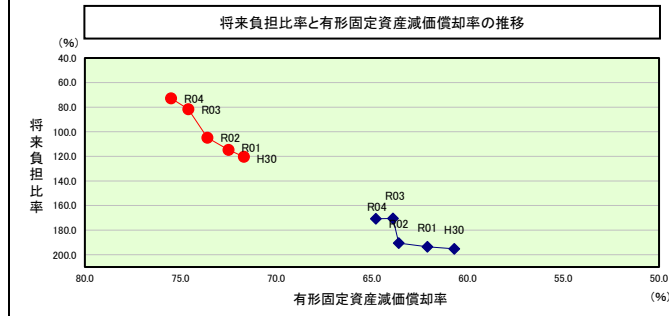
人口	9,212,003	人(R5.1.1現在)	実質赤字比率	-	%
うち日本人	8,972,702	人(R5.1.1現在)	連結実質赤字比率	-	%
面積	2,416.32	km ²	実質公債費比率	9.4	%
歳入総額	2,539,155,772	千円	将来負担比率	72.7	%
歳出総額	2,492,642,650	千円	グループ	H30 B R01 B R02 B	
実収支	26,730,480	千円	(年度毎)	R03 B R04 B	
標準財政規模	1,376,993,363	千円			
地方債現在高	3,227,799,513	千円			



※ グループとは、道府県を財政力指数の高低によって5つに分類したものである。
 [Aグループ 1.000以上、Bグループ 0.500以上1.000未満、Cグループ 0.400以上0.500未満、Dグループ 0.300以上0.400未満、Eグループ 0.300未満]
 ※ 人口については、各調査対象年度の1月1日現在の住民基本台帳に記載されている人口に基づいている。
 ※ グループ内順位及び都道府県平均は、令和4年度決算の状況である。また同一グループの団体が存在しない場合、グループ内順位を表示しない。
 ※ グループ関連の数値は、各年度の調査で回答があった団体に関するもの。



将来負担比率及び有形固定資産減価償却率の組合せによる分析



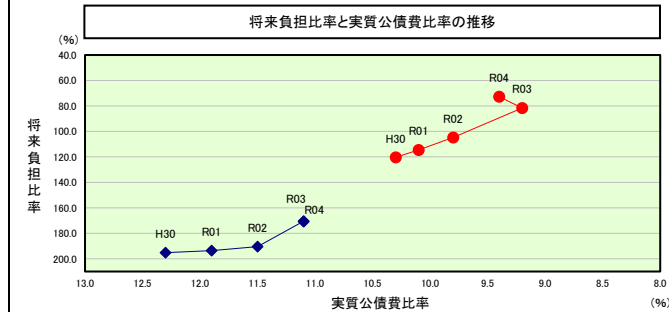
分析欄

県債の発行抑制や将来負担額に充当可能な基金の増により、将来負担比率は減少傾向にあり、類似団体平均値よりも低い水準となっている。有形固定資産減価償却率は類似団体よりも高く、令和3年度と比較すると微増している。これは、本県では、既存施設を有効に活用するため、施設の長寿命化対策を進め、財政負担を抑えているためである。今後も「神奈川県公共施設等総合管理計画」に基づき、長期的な視点を持った維持・更新に取り組んでいく。

(参考)

		H30	R01	R02	R03	R04
当該団体値	将来負担比率	120.3	114.6	104.8	81.6	72.7
	有形固定資産減価償却率	71.7	72.5	73.6	74.6	75.5
グループ内平均値	将来負担比率	195.2	193.6	190.5	170.5	170.8
	有形固定資産減価償却率	60.7	62.1	63.6	63.9	64.8

将来負担比率及び実質公債費比率の組合せによる分析



分析欄

実質公債費比率及び将来負担比率は、類似団体の平均と比べ低い水準となっている。実質公債費比率は、令和4年度は、徴収猶予特例債などの交付税措置されない公債費の増により、上昇したが、これまで取り組んできた県債の発行抑制の効果から近年は低い水準で推移している。また、県債の発行抑制に加え、充当可能な基金の増等から将来負担比率は減少傾向となっている。

(参考)

		H30	R01	R02	R03	R04
当該団体値	将来負担比率	120.3	114.6	104.8	81.6	72.7
	実質公債費比率	10.3	10.1	9.8	9.2	9.4
グループ内平均値	将来負担比率	195.2	193.6	190.5	170.5	170.8
	実質公債費比率	12.3	11.9	11.5	11.1	11.1

(13)-1都道府県施設類型別ストック情報分析表①

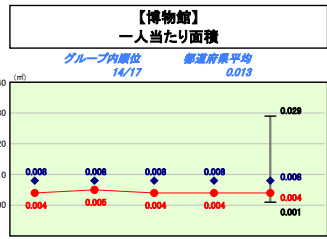
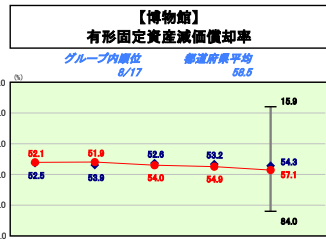
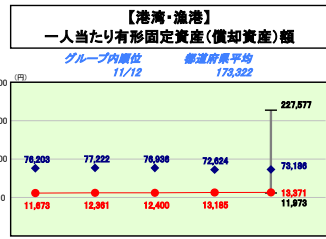
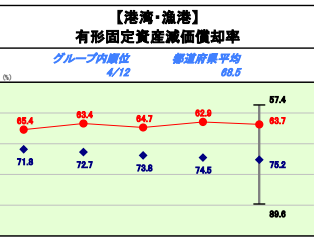
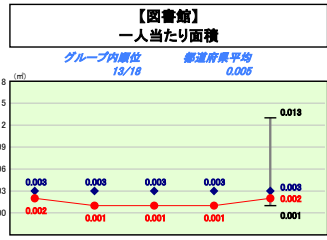
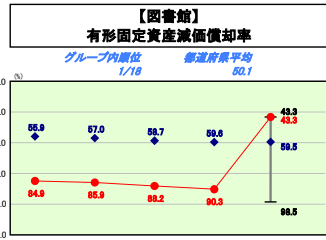
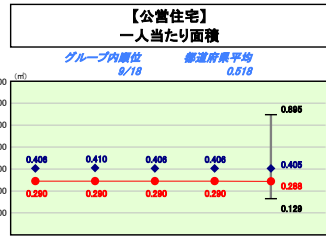
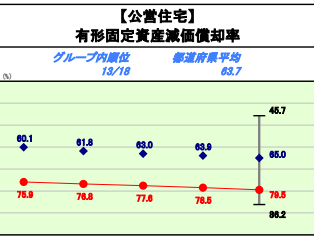
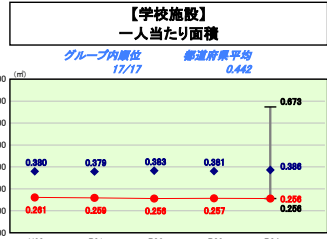
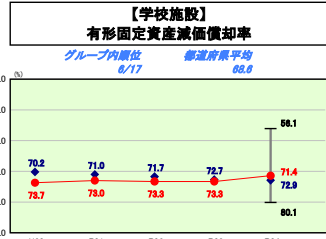
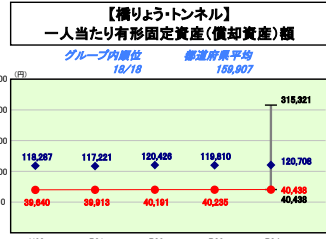
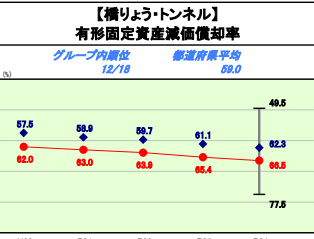
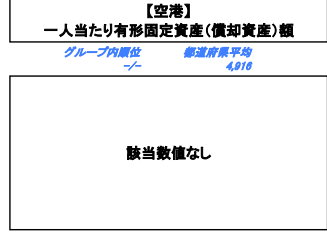
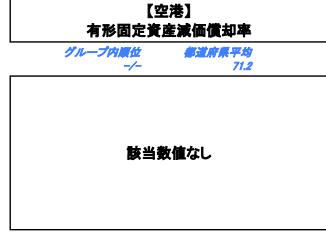
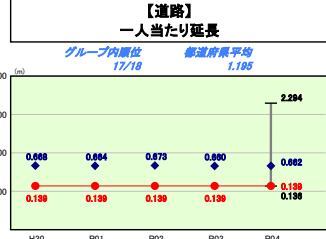
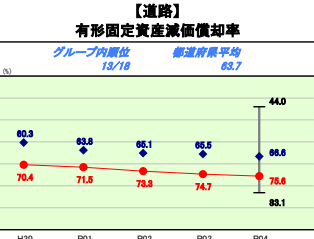
令和4年度

神奈川県

人口	9,212,008 人(05.1.1現在)	実質赤字比率	- %
うち日本人	8,972,702 人(05.1.1現在)	連結実質赤字比率	- %
歳入総額	2,416,52 千円	実質公債費比率	0.4 %
歳出総額	2,638,155,772 千円	将来負担比率	72.7 %
歳入超過	2,492,642,650 千円	グループ	H30 B R01 B R02 B
実収支	26,730,480 千円	(年度毎)	H30 B R03 B R04 B
標準財政規模	1,376,993,363 千円		
地方債残高	3,227,799,513 千円		

- 当該団体値
- ◆ グループ内平均値
- ┆ グループ内の最大値及び最小値

※ グループとは、道庁県を財政力指数の高低によって5つに分類したものである。
 (Aグループ 1.000以上、Bグループ 0.500以上1.000未満、Cグループ 0.400以上0.500未満、Dグループ 0.300以上0.400未満、Eグループ 0.300未満)
 ※ 人口については、各調査対象年度の1月1日現在の住民基本台帳に登録されている人口に基づいている。
 ※ グループ内順位及び都道府県平均は、令和4年度決算の状況である。また同一グループの団体が存在しない場合グループ内順位を表示しない。
 ※ グループ関連の数値は、各年度の調査で回答のあった団体に関するもの。



施設情報の分析

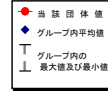
当表において、本県で特に有形固定資産減価償却率が高くなっている類型は、道路、学校施設、公営住宅である。
 道路施設については、平成28年3月に「神奈川県道路施設長寿命化計画」を策定、令和4年3月に改定し、老朽化に起因する事故を防いで利用者の安全・安心を確保するとともに、長寿命化により、中長期的な維持管理・更新に係るトータルコストの削減及び平準化を目指している。
 学校施設については、県立高校の約40%、県立特別支援学校の約25%が建設後40年以上経過しており、施設全体の老朽化が進んでいること等を踏まえ、平成28年度～令和9年度を期間とする「県立学校施設再整備計画」を策定し、老朽化対策による快適な教育環境の整備と施設の長寿命化に取り組んでいるところである。
 公営住宅については、令和6年3月に「神奈川県県営住宅健康増進計画」を改定して令和5年までに建設した住宅約2万7千戸の建替えを推進しており、法定耐用年数である建設後70年までに建て替えるよう計画している。
 なお、図書館については、令和4年度中に新築新築工事が完了したことを受け、有形固定資産減価償却率が大きく低下した。

(13)-2都道府県施設類型別ストック情報分析表②

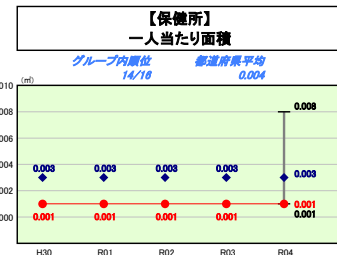
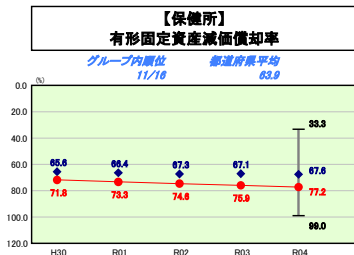
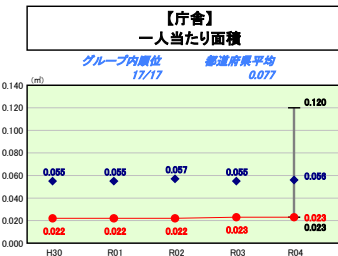
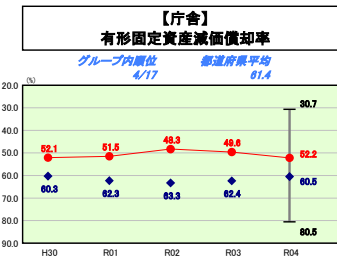
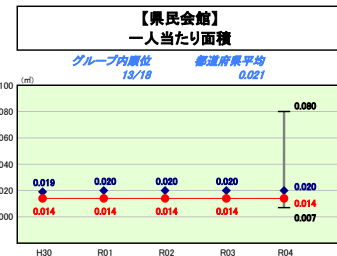
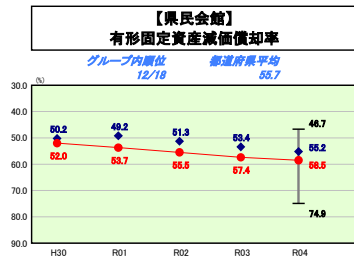
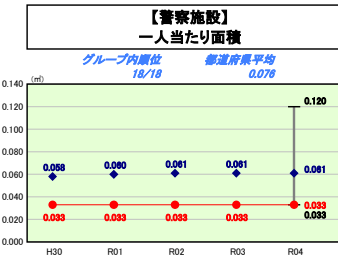
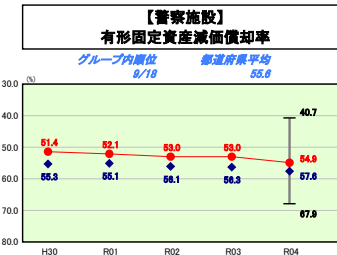
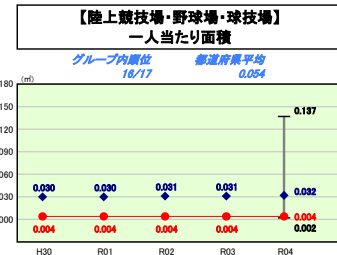
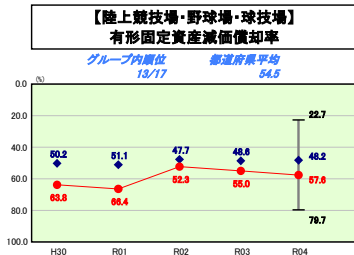
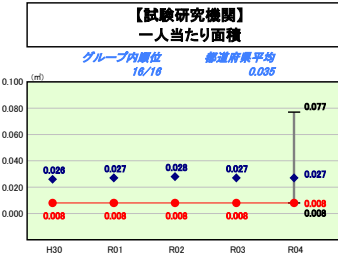
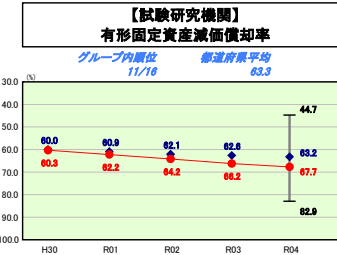
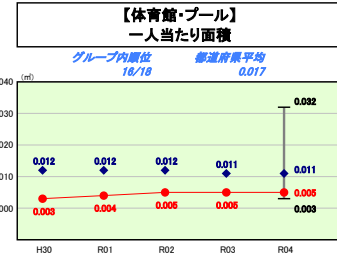
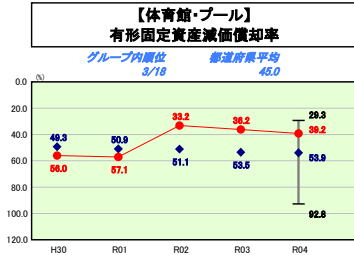
令和4年度

神奈川県

人口	9,212,003人(05.1.1現在)	実質赤字比率	-%
うち日本人	8,972,702人(05.1.1現在)	連続実質赤字比率	-%
面積	2,416.32km ²	実質負債比率	9.4%
歳入総額	2,539,155,772千円	特長負債比率	72.7%
歳出総額	2,492,642,650千円	グループ	H30 B R01 B R02 B
実質収支	26,730,480千円	(年度毎)	R03 B R04 B
標準財政規模	1,376,993,363千円		
地方債現在高	3,227,799,513千円		



※ グループとは、道府県を財政力指数の高値によって5つに分類したものである。
 (Aグループ 1.000以上、Bグループ 0.500以上1.000未満、Cグループ 0.400以上0.500未満、Dグループ 0.300以上0.400未満、Eグループ 0.300未満)
 ※ 人口については、各調査対象年度の1月1日現在の住民基本台帳に登録されている人口に基づいている。
 ※ グループ内順位及び都道府県平均は、令和4年度決算の状況である。また同一グループの団体が存在しない場合グループ内順位を表示しない。
 ※ グループ関連の数値は、各年度の調査で回答があった団体に関するもの。



施設情報の分析値
 当該表において、本県の有形固定資産減価償却率が高くなっている類型は保健所である。これは既存施設の長寿命化対策を進め、有効に活用することで、財政負担を抑えているためである。